

2023年4月22日読書会用

第328回山口西田読書会（2023年4月8日開催分）プロトコル

唐露記

## 1、テキスト

「場所」「四」の第4段落の始まり 266頁6行目から同段落 267頁5行目「意志の立場に於て見られ得ると考えられるのは此故である」まで

## 2. キーワードないしキーセンテンスと考察ないし問い

### キーセンテンス

「限定せられた有が直ちに真の無に於てあると考えられる時、知覚作用が成り立つ、かかる無が更に無に於てあると考えられる時、判断作用が成立するのである。」(267, 2~3)

### キーワード

「真の無に於いてあると考えられる」(267, 2)

### 考察ないし問い

一般概念（「限定せられた有」）がもともと「真の無の場所に於てある」。しかし、一般概念が直ちに「無の場所に映されたもの」として「考えられる時」、それはすでに「対立的無」場所に於てあるとされる、この時、知覚作用が成立すると言われる。そのことは、真の無に於てある一般概念がすでに「対立的無」場所に映し出され、それ自身が意識されて知覚作用になると考えられるか？もしこう考えられるならば、有の場所が無の場所に包摂され、映された時、一般概念自身の矛盾がそこに見られるのではないか。